

黒大豆生産者の経営安定

要約

宇陀市では、平成10年より黒大豆「丹波黒」を導入。以降、順調に面積が拡大、加工品開発にも取り組むなか、平成16年に生産部会を設立、平成20年からは黒大豆枝豆としての出荷を始める

とともに、「黒豆枝豆まつり」も開催するなど市の特産にまで成長してきた。

しかし、担い手の高齢化、鳥獣害や虫害の発生等の問題が発生している。この対策として新規参入者を対象とした講習会や虫害対策の実証圃の設置を行うとともに、部会への集荷啓発と単価向上に取り組んだ。

現状(背景)と課題

- ・(現状) 担い手の高齢化と新規参入の滞り
連作に伴うダイズシストセンチュウ
による被害の発生
- ・(課題) 新規参入者の発掘と育成
生産拡大と共同出荷への啓発



目標

- ・生産物1kg当たり平均単価 1,050円
- ・部会集荷量 15t
- ・ダイズシストセンチュウの耕種的防除技術の確立

活動内容

- ・対象者：JAならけん黒大豆・小豆生産部会、新規参入者
- ・開花期、子実肥大期等、栽培のポイントとなる時期にJA、生産部会役員と圃場巡回を実施。
- ・緑豆の事前播種によるダイズシストセンチュウの耕種的防除技術の現地実証圃を設置。
- ・新規参入者等を対象とした黒大豆・黒大豆枝豆講習会を定期的開催。
- ・「黒豆枝豆まつり」開催等、生産部会の活動に対する助言指導と企画提案。

成果

- ・生産物1kg当たり平均単価 1,000円
- ・生産部会集荷量 6t
- ・黒大豆・黒大豆枝豆講習会 計6回開催
受講受付50名、平均出席人数33名、新規作付面積75a
- ・ダイズシストセンチュウ防除実証圃では、被害は発生せず、一応の効果が見られた。



黒大豆・黒大豆枝豆講習会とオリジナルテキスト



「黒豆枝豆まつり」での収穫体験

東部農林振興事務所農業普及課
担当：担い手・農地マネジメント係 山本
農産物ブランド推進係 櫻井
水稻に代わる高生産性作物導入推進事業

普及活動のポイント

- ・ J A、生産部会役員との情報交換を密にして、普及活動を実施。
- ・ 黒大豆・黒大豆枝豆講習会では、普及が地域に合わせたオリジナルのテキストを作成し座学を担当。また、栽培実習は生産部会、選別・出荷方法は J A が担当するなど、関係者が役割を分担して実施。
- ・ 研究機関と連携して、作型や品種比較、ダイズシストセンチュウ対策について、現地実証試験に取り組み、生産現場への早期の導入を図った。

対象の変化

- ・ 黒大豆・黒大豆枝豆講習会をきっかけに、家庭菜園や直売所出荷から本格的に黒大豆生産に参入する事例が見られた。また、生産部会が講師として携わることで、生産者にも担い手育成への関心が高まっている。

対象者からのコメント

- ・ 集荷量を増加させるために、新規作付者を増やしていきたい。(J A 担当者)
- ・ これまで家庭菜園で豆を作っていたが、講習会の話聞いて、直売所出荷から始めようと参加した。色々詳しい話を聞かせてもらい非常に勉強になった。今後の黒大豆栽培に役立てたい。(講習会参加者)

これからの活動ビジョン

- ・ J A、生産部会と連携した指導活動を継続して行っていく。
- ・ ダイズシストセンチュウ実証圃について、防除効果や黒大豆の収量等のデータをとりまとめるとともに、緑豆の事前播種による黒大豆の播種が通常より遅れる等の課題も整理し、この防除技術の普及性を検討する。また、過去の被害圃場を抽出しての実証試験を実施する。
- ・ 黒大豆・黒大豆枝豆講習会を継続して開催し、新規作付者の掘り起こしと作付啓発を行う。
- ・ 生育初期にシカ等の食害により欠株や生産中止となる圃場が見られるので、生産部会を通じて防護柵の設置等の啓発を行う。

活動体制

